

Oracle Discoverer 3.1

リリース・ノート

リリース 3.1.44

2001 年 1 月

部品番号: A62005-6

ORACLE®

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

Copyright © 2000, Oracle Corporation
All Right Reserved

目次

はじめに.....	3
1. 動作条件.....	4
2. コンポーネントのバージョン.....	7
2.1 Administration Edition.....	7
2.2 User Edition.....	10
3. ドキュメント CD-ROM に含まれるドキュメント.....	13
4. 製品 CD-ROM に含まれるドキュメント.....	14
5. Discoverer をインストールする前に.....	15
5.1 限定使用プログラムについて.....	15
5.2 インストール先について.....	15
5.3 Discoverer/2000 からのアップグレードについて.....	15
5.4 Discoverer 3.1 (3.1.25、3.1.28、3.1.36、3.1.38、3.1.42 等) からのアップグレードについて.....	15
5.5 このリリースでの変更点.....	16
5.6 WindowsNT 4.0 および Windows2000 でのユーザー権限について.....	16
6. このリリースでサポートされていない機能.....	17
6.1 Administration Edition.....	17
6.2 User Edition.....	17
7. このリリースでの主な制限事項および回避策.....	18
7.1 Administration Edition.....	18
7.2 User Edition.....	20
7.3 その他.....	22

はじめに

本リリースノートでは、Oracle Discoverer（以下 Discoverer） 3.1 を利用するために必要な情報を提供します。

オンラインで別途提供されているリリースノート(READMJA.rtf)は、Discoverer 英語版リリースノートを翻訳して、日本語版に合うように修正されたものです。あわせてご覧ください。ただし、重複する内容につきましてはこのリリースノートの記述が優先されますのでご注意ください。

本リリースノートには、動作条件、限定使用プログラム使用上の注意、付属ドキュメントの説明など、Discoverer を使用する上で必要となる情報が記載されています。インストールを始める前に必ずお読みください。

1. 動作条件

Discoverer を動作させるためには、以下のハードウェア、ソフトウェア資源が必要です。

- 日本語 Windows95、Windows98、WindowsNT 4.0、または Windows2000 の稼動する 80486/66MHz 以上 (推奨 Pentium 以上) の CPU を持った PC/AT 互換機、または NEC PC-98 シリーズ
- メモリーは、Windows95 および Windows98 で動作させる場合は 24 MB 以上、WindowsNT および Windows2000 で動作させる場合は 32 MB 以上
- 必要とされるディスク容量は、およそ下記の通りです。

他の Oracle 製品がインストールされていない場合

	Administration Edition (User Edition を含む)	User Edition
完全インストール	約 270 MB	約 230 MB
最小インストール	約 180 MB	約 160 MB

既に他の Oracle 製品がインストールされている場合

	Administration Edition (User Edition を含む)	User Edition
完全インストール	約 160 MB	約 120 MB
最小インストール	約 70 MB	約 50 MB

注意: インストールされている製品およびファイルシステムにより大きく異なります。上記の値は、FAT16 ファイルシステム上の Oracle8 Client 製品が既にインストールされている環境での参考値です。

- マウス
- 画面の解像度は 640×480 以上
- CD-ROM ドライブ (インストール時に使用)
- Net*8 を使用して Oracle データベースに接続できる環境

■ サポートするデータベース

- a. Discoverer 3.1 は、リモートの Oracle Server リリース 7.1.6 以降のすべてのリリース（すべての Oracle8 および Oracle8i を含む）においての実行がサポートされています。
- b. Discoverer 3.1 は、Oracle8i Personal Edition リリース 8.1.5 以降のすべてのリリースをサポートしています。
- c. Discoverer 3.1 は、Oracle8 Personal Edition リリース 8.0.6 をサポートしています。
- d. Discoverer 3.1 は、Oracle8 Personal Edition リリース 8.0.3、8.0.4、8.0.5 をサポートしていません。
- e. Discoverer 3.1 と同じマシン上かつ同じ ORACLE_HOME にインストールできる Oracle Server はリリース 8.0.6 のみです。
- f. Discoverer 3.1 は、Personal Oracle7 Release 7.3.2 以降のリリースをサポートします。ただし、次の例外があります。

Personal Oracle7 を使用している場合、SQL*Net Add-on をインストールしなければならない場合があります。インストーラのインストール済製品リストに SQL*Net Add-on が含まれているときは、SQL*Net Add-on をインストールする必要はありません。Personal Oracle7 リリース 7.3.4.0.0 以降のバージョンを使用している場合は、インストールの際に、必要となる SQL*Net Add-on が自動的に追加されます。

リリース 7.3.4.0.0 以外の Personal Oracle7 を使用している場合は、使用中の Personal Oracle7 のリリースに対応した SQL*Net Add-on をインストールする必要があります。SQL*Net Add-on は、オリジナルの Personal Oracle7 CD-ROM、またはこの製品の CD の¥EXTRAS¥NETADDON ディレクトリに収録されています。

この CD から SQL*Net Add-on をインストールするには、まず、使用中のデータベースのバージョンに対応する SQL*Net Add-On が含まれているディレクトリに移動します。

¥EXTRAS¥NETADDON 下に、Personal Oracle7 の各リリースに対応する次のディレクトリがあります。

For73210 — Personal Oracle7 7.3.2.1.x 用 (Windows95 のみ)

For73220 — Personal Oracle7 7.3.2.2.x 用 (Windows95 および WindowsNT)

For73300 — Personal Oracle7 7.3.3.x.x 用 (Windows95 および WindowsNT)

次に、該当するディレクトリの中の SETUP.EXE ファイルをダブルクリックし、リリースに対応するインストーラを起動します。

Software Asset Manager に、SQL*Net Add-On と、通常 SQL*Net Client が選択された状態で表示されます。「インストール」ボタンをクリックして、コンポーネントをインストールします。SQL*Net Add-On がインストールされ、PersonalOracle7 が設定されます。これで、Discoverer のように、Oracle8 のクライアント・ソフトウェア上に構築された製品からデータベースに接続できます。この方法の利点は、SQL*Net を通して接続しているために、PersonalOracle7 への接続時に問合せを取り消すことができることです。

この場合でも、Windows95 下の Personal Oracle7 リリース 7.3.2.1.1 では、エラー・メッセージ「TNS: リスナーが見つかりません」が表示されて PersonalOracle7 から切断される場合があります。特別な接続文字列を使用することにより、この問題を解決できる場合があります。接続ダイアログ・ボックスで 'tcp-loopback' と入力して、同じユーザー名とパスワードで PersonalOracle7 データベースへの接続を試してください（例: video31/video31@tcp-loopback）。

また、WindowsNT4.0 上で Personal Oracle7 を使用する場合、上記の tcp-loopback 接続を使用することを強く推奨します。これはダイレクト接続時にパフォーマンスが悪化する場合があるためです。

- g.** Oracle7 リリース 7.3.2.2.x はサポートの対象となりません。パッチを当てて、7.3.2.3.x にする必要があります。

2. コンポーネントのバージョン

2.1 Administration Edition

製品	バージョン
Oracle Discoverer	3.1.44c
Discoverer System Support Files	3.1.44c
Discoverer Import Library	3.1.44c
Discoverer End User Layer Libraries	3.3.31.0.1
Discoverer Language Supplement	3.1.44c
Administration Edition	3.1.44.0.1
Administration Edition Manuals	3.1.26.01
Administration Edition Installation Guide	3.1.26.01
Administration Edition Quick Tour	3.1.26.01
Administration Edition Cue Cards	3.1.44c
Administration Edition Cue Card Sound Files	3.1.44c
Tutorial Installation	3.1.44c
User Edition	3.1.44c
User Edition Manuals	3.1.26.01
User Edition Quick Tour	3.1.26.01
User Edition Cue Cards	3.1.44c
User Edition Cue Card Sound Files	3.1.44c

User Edition Tutorial	3.1.44c
Required Support Files	8.0.6.0.0
SQL*Plus	8.0.6.0.0
Java(TM) Runtime Environment	1.1.7.15.1
Assistant Common Files	8.0.6.0.0
Windows Cue Card Viewer	2.0.0.0
System Support Files	2.1.0.0.0
Developer/2000 - Reports API	6.0.5.0.0
GUI Common Files	6.0.5.0.2d
Tools Utilities	6.0.0.6.0
Oracle OCX Pack	6.0.0.0.0
Oracle Net8 Products	8.0.6.0.0
Oracle Net8 Client	8.0.6.0.0
Oracle Net8 Assistant	8.0.6.0.0
Oracle Trace Collection Services	8.0.6.0.0
Oracle Protocol Adapters	8.0.6.0.0
Oracle TCP/IP Protocol Adapter	8.0.6.0.0
Oracle SPX Protocol Adapter	8.0.6.0.0
Oracle Named Pipes Protocol Adapter	8.0.6.0.0
Oracle LU6.2 Protocol Adapter	8.0.6.0.0

INTERSOLV DataDirect Drivers	2.12.0.1
Driver for Btrieve	2.12.0.1
Driver for DB2/2	2.12.0.1
Driver for dBASE	2.12.0.1
Driver for Excel	2.12.0.1
Driver for Excel 5	2.12.0.1
Driver for Informix 5	2.12.0.1
Driver for Informix 7	2.12.0.1
Driver for Ingres	2.12.0.1
Driver for Oracle7	2.12.0.1
Driver for Paradox	2.12.0.1
Driver for SQL Base	2.12.0.1
Driver for SQL Server	2.12.0.1
Driver for SQL Server 6	2.12.0.1
Driver for Sybase	2.12.0.1
Driver for ASCII Text Files	2.12.0.1

2.2 User Edition

製品	バージョン
Oracle Discoverer	3.1.44c
Discoverer System Support Files	3.1.44c
Discoverer Import Library	3.1.44c
Discoverer End User Layer Libraries	3.3.31.0.1
Discoverer Language Supplement	3.1.44c
User Edition	3.1.44c
User Edition Manuals	3.1.26.01
User Edition Quick Tour	3.1.26.01
User Edition Cue Cards	3.1.44c
User Edition Cue Card Sound Files	3.1.44c
User Edition Tutorial	3.1.44c
Required Support Files	8.0.6.0.0
SQL*Plus	8.0.6.0.0
Java(TM) Runtime Environment	1.1.7.15.1
Assistant Common Files	8.0.6.0.0
Windows Cue Card Viewer	2.0.0.0
System Support Files	2.1.0.0.0
Developer/2000 - Reports API	6.0.5.0.0

GUI Common Files	6.0.5.0.2d
Tools Utilities	6.0.0.6.0
Oracle OCX Pack	6.0.0.0.0
Oracle Net8 Products	8.0.6.0.0
Oracle Net8 Client	8.0.6.0.0
Oracle Net8 Assistant	8.0.6.0.0
Oracle Trace Collection Services	8.0.6.0.0
Oracle Protocol Adapters	8.0.6.0.0
Oracle TCP/IP Protocol Adapter	8.0.6.0.0
Oracle SPX Protocol Adapter	8.0.6.0.0
Oracle Named Pipes Protocol Adapter	8.0.6.0.0
Oracle LU6.2 Protocol Adapter	8.0.6.0.0
INTERSOLV DataDirect Drivers	2.12.0.1
Driver for Btrieve	2.12.0.1
Driver for DB2/2	2.12.0.1
Driver for dBASE	2.12.0.1
Driver for Excel	2.12.0.1
Driver for Excel 5	2.12.0.1
Driver for Informix 5	2.12.0.1
Driver for Informix 7	2.12.0.1

Driver for Ingres	2.12.0.1
Driver for Oracle7	2.12.0.1
Driver for Paradox	2.12.0.1
Driver for SQL Base	2.12.0.1
Driver for SQL Server	2.12.0.1
Driver for SQL Server 6	2.12.0.1
Driver for Sybase	2.12.0.1
Driver for ASCII Text Files	2.12.0.1

3. ドキュメント CD-ROM に含まれるドキュメント

ドキュメント CD-ROM には、下記のオンライン・ドキュメントが収録されています。

「Administration Edition」

- インストレーションおよびアップグレード・ガイド
- 管理ガイド
- ユーザーズ・ガイド
- チュートリアル

「User Edition」

- ユーザーズ・ガイド
- チュートリアル

それぞれのドキュメントには、以下のような内容が記述されています。

「インストレーションおよびアップグレード・ガイド」

Discoverer のインストール手順、注意事項など

Discoverer のチュートリアルのインストール手順、注意事項など

「チュートリアル」

User Edition を短い期間で習得するためのチュートリアル

「管理ガイド」

Discoverer 管理者のための手引き

「ユーザーズ・ガイド」

User Edition 利用者のための手引き

4. 製品 CD-ROM に含まれるドキュメント

Discoverer の製品 CD-ROM には、下記のオンライン・ドキュメントが付属しています。実際にインストールされるコンポーネントは、インストール状況により異なります。

Release Notes Japanese

Administration Help (英語)

Administration Help Japanese

Administration Guide (英語)

Administration Edition Quick Tour (英語)

User Help (英語)

User Help Japanese

User's Guide (英語)

User Edition Quick Tour (英語)

User Tutorial (英語) DISCVR31¥DEMO¥usertja.doc に日本語版が用意してあります。

5. Discoverer をインストールする前に

Discoverer をインストールする前に、いくつかの注意事項があります。管理者、エンドユーザーとも必ずお読みください。

5.1 限定使用プログラムについて

CD-ROM に同梱されている Net*8、SQL*Plus は、当製品のインストール後にデータベースへの接続を確認するためのものです。それ以外の目的（Discoverer での使用も含む）で使用される場合には、ライセンスが必要となります。ライセンスをお持ちでない場合は、必ず購入してください。

5.2 インストール先について

Oracle8i と同一マシンで使用する場合、Oracle8i 製品よりも先に Discoverer をインストールし、別の ORACLE ホームに Oracle8i をインストールする必要があります。また、既に Oracle8i 製品がインストールされているマシンに Discoverer をインストールすることは出来ません。また、Discoverer は Oracle Home Selector には対応しておりません。

5.3 Discoverer/2000 からのアップグレードについて

Oracle Discoverer/2000 から Oracle Discoverer 3.1 へアップグレードにつきましては、サポートを終了させていただきました。これはユーザー様が Discoverer/2000 から移行する場合に必要な作業工数と、Discoverer3.1 を使用して新たに環境を構築する作業工数を比べた場合に、新たに環境を構築するほうが少ない作業工数で済むという現状に基づいた判断です。

5.4 Discoverer 3.1（3.1.25、3.1.28、3.1.36、3.1.38、3.1.42 等）からのアップグレードについて

Discoverer3.1 をインストール済みのマシンにこの CD-ROM から 3.1.44 をインストールする場合には、あらかじめ既存の Discoverer を削除しておく必要があります。削除するには、Oracle Installer を起動して「カスタム・インストール」を選択し、右側のパネルで既存の Discoverer を選択後「削除」ボタンをクリックします。

製品の削除およびインストールの詳細については「インストレーションおよびアップグレード・ガイド」を参照してください。

5.5 このリリースでの変更点

このリリースより Required Support Files のバージョンが 8.0.6 になりました。また、メニューやウィザードなどのユーザーインターフェースにはこのバージョンから全角文字が使われています。

5.6 WindowsNT 4.0 および Windows2000 でのユーザー権限について

WindowsNT 4.0 および Windows2000 で動作させる場合は、Discoverer を動作させる O/S ユーザーが Administrators グループに所属している必要があります。所属するグループの追加は、WindowsNT 4.0 の場合：「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「ユーザー マネージャー」にて、Windows2000 の場合：「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」→「ローカル ユーザーとグループ」にて行なうことが可能です。詳しくは O/S のマニュアルをご参照下さい。この問題は次期リリース以降での対応を予定しています。

6. このリリースでサポートされていない機能

6.1 Administration Edition

- 現在のリリースでは、値階層を定義することができません。次期リリース以降での対応を予定しています。
- 日本語版は、ODBC 接続をサポートしていません。
- バージョン 3.1 では、SQL*Net 接続をサポートしていません。 Net8 を使用してデータベースに接続する必要があります。

6.2 User Edition

- OLE はサポートしていません。
- 日本語版は、ODBC 接続をサポートしていません。
- バージョン 3.1 では、SQL*Net 接続をサポートしていません。 Net8 を使用してデータベースに接続する必要があります。
- このリリースでは、Oracle Reports へのエクスポート機能をサポートしていません。

7. このリリースでの主な制限事項および回避策

7.1 Administration Edition

- Administration Edition からキャラクタセットが EUC のデータベースへ接続した場合「アイテム名などに半角カナを使用したビジネスエリア」が作成できないという問題があります。半角カナのご利用は避けてください。
- ロードウィザードで表およびビューを絞り込む際に、「ユーザーのプライベート表」を指定しても、そのユーザーの所有している表およびビューすべてが表示されてしまう問題があります。これまでのバージョンとの互換性をとるため、修正されていません。
- Oracle DBMS プロファイルを使用する際の注意点

CPU その他のリソースを制限するために、Oracle データベースのプロファイルを使用できます。Discoverer Administration Edition でプロファイルの割り当てを行なうには、以下のデータベース権限が必要です。

DBA_PROFILES

DBA_USERS

- Eul_Date_Trunc 関数の使用法

Discoverer で使用できる関数に EUL_DATE_TRUNC という関数があります。この関数を使用すると、日付形式を保ったまま、指定した書式で日付をマスクすることができます。これにはいくつかの利点があります。例えば、YYYY-QU という書式を指定することで、四半期が属する年を確認することができます。

例: 日付 a) 25-Aug-1934、b) 11-nov-1934、c) 03-feb-1933 に

Eul_date_trunc(Date,'YYYY') を適用すると、01-jan-1934、01-jan-1934、01-jan-1933 が生成されます。

この結果、はじめの二つの日付 a)と b)は同じ日付として扱われます。

- ロード時の結合作成基準について

Discoverer 3.0.8 では、Discoverer Administration Edition が EUL 上のすべてのビジネスエリア間の結合を一括ロード（バルクロード）時に自動的に作成していました。ユーザーからの要望により、ビジネスエリア内のフォルダ間についてのみ結合を作成するように、動作が変更されました。レジストリ・キーでこの動作を変更することができます。

```
¥¥HKEY_CURRENT_USER¥software¥Oracle¥Discoverer3.1  
¥Administrator¥CreateJoinInOtherBAS
```

デフォルト値は 0（ビジネスエリア間の結合を作成しない）です。この値を 1 に変更すると、ビジネスエリア間の結合を作成するようになります。

- Oracle Designer からのロードについて

Designer からのロードについて、デフォルトの設定が変更されています。

- a. フォルダ名は Designer 上での表の「名前」でしたが、表の「表示タイトル」（空の場合は「名前」）になりました。
- b. アイテム名は Designer 上での列の「名前」でしたが、列の「プロンプト」（空の場合は「名前」）になりました。

- 問合せ統計とサマリーフォルダの関係を表示するキューブ・アイコンについて

管理ガイドのセクション 12.4.2 に、サマリー中にすべてのオブジェクトが含まれていた問合せに対してのみキューブアイコンが表示されるように記述されています。この動作は、一部もしくはすべてのオブジェクトがサマリーフォルダに対して含まれていた場合に表示されるように仕様を変更されました。完全に一致した場合にはその行が太字で表示されます。もし完全に一致していた場合、ウィザード中の「次へ」ボタンは無効になります。すでにサマリーが存在しているからです。

- ダイアログのヘルプボタン

一部のダイアログのヘルプボタンを押した場合に、ヘルプトピックがないというエラーメッセージが表示されてヘルプが表示されない場合があります。お手数ですが、メニューの「ヘルプ」から該当項目を参照してください。

- カスタムフォルダの SQL 文の最終行をコメント行 (--で始まる行) にすると、妥当性チェックボタンが機能しません。最終行をコメント行にしないようにしてください。
- パスワードの猶予期間のログインについて

Oracle8i Server R8.1.6 よりサポートされた、パスワードの有効期限および猶予期間の設定を行って場合、パスワードの猶予期間にログインできない問題があります。有効期限が切れて猶予期間に入った時点で Discoverer にログインしようとする、
「Ora-28002 パスワードが nnn 日以内に期限切れになります」というエラーが出力され、ログインできません。パスワードを変更してログインしてください。

7.2 User Edition

- データのエクスポート

現在のリリースでは、Lotus 1-2-3 形式(.wks)での日本語データのエクスポートが正常に行なわれません。これは、.wks 形式のファイルが日本語をサポートしていないために起こります。一度別の書式で保存して、適切なアプリケーションから開いてください。

- Excel へエクスポートする際の注意点

Discoverer は Microsoft Excel95 形式へのエクスポートが可能です。Discoverer は個々のデータ・ポイントに基づいて結果を計算することができませんが、この場合、ワークシートを表計算アプリケーションにエクスポートし、その表計算アプリケーションの計算機能を使用することが可能です。

Discoverer のシート名に日本語を使用した場合 Excel へエクスポートして印刷すると、シート名等が化けることがあります。画面上では正常に表示されます。Excel のメニューから「書式」→「スタイル」→「フォント」で、日本語のフォントを選択して、回避してください。

エクスポートされたデータの書式に問題がある場合、Excel でセルの書式変更を行なってください。スタイルを利用する場合、Excel 側で任意に追加してください。

なお、Excel95 より上位のバージョンにのみ存在する機能は利用できないことがあります。Excel の仕様を確認の上、仕様外のデータをエクスポートしないようにして下さい。(例: 1セルの文字数: 255、ワークシート: 16,384 行×256 列)

エクスポートデータが Excel のワークシートサイズ等の仕様を越える場合、開くことができなかったり、Excel が異常終了を起こすことがあります。

- ワークブックの共有について

ワークブックの共有で、「ワークブック → ユーザー」タブでエラーが表示され共有が出来ないことがあります。この場合、「ユーザー → ワークブック」タブで共有をすることで問題を回避してください。

- ワークブック名について

ワークブック名の先頭の文字に全角括弧「(」を使用した場合、一部の機能（ワークブックの共有など）で正しくワークブックが認識されない問題があります。ワークブック名の先頭には全角括弧を使用しないでください。半角括弧を使用する場合、正常に動作します。

- コマンドライン・オプションについて

EUL 名を指定したときに大文字小文字は区別されますのでご注意ください。「EUL 表を含むデフォルト スキーマまたは指定スキーマにアクセスできません。」というエラーが表示された場合、EUL 名を大文字で指定してください。

- Windows2000 でのワークシート・タイトルの背景について

Windows2000 で、ワークシートの背景に画像や色を指定した場合、表示が乱れることがあります。

- グラフウィザードのオプションを使用してグラフのスケールを変更できない

メニューまたは右クリックから開いたグラフの編集オプションでは、グラフのスケールを変更することができません。スケールを変更するには、「グラフ」メニューから「スケール」オプションを選択してください。また、スケールの変更については保存されません。

- 「タイトルの編集」ダイアログでの日本語入力

タイトルフィールドで日本語入力を行なう場合に、はじめのキー入力が無視される場合があります。

- ダイアログのヘルプボタン

一部のダイアログのヘルプボタンを押した場合に、ヘルプトピックがないというエラーメッセージが表示されてヘルプが表示されない場合があります。お手数ですが、メニューの「ヘルプ」から該当項目を参照してください。

- Discoverer と Oracle OLAP 製品との統合機能における制限

- Discoverer がエクスポートする Express 形式のファイル(*.dcs)で、OLAP Server データベースのディメンション名、変数名として使用される部分に 2 バイト文字が含まれる場合、Express Administrator 6.2 でデータベースを作成する際にエラーが発生します。データを Express 形式でエクスポートする場合には、ワークシート上の列ヘディングを 1 バイト文字に変更した後、エクスポートを行ってください。

例：「地域」を「Region」に、「売上」を「Sales」に変更。

- ツールバーの「Express」ボタンは、Discoverer 3.1 のインストールされているマシン上に、OLAP Server 6.2 と Express Analyzer 2.2 または Express Objects 2.2 がインストールされている場合にだけ使用できます。

Discoverer と Express の統合の詳細につきましては、
{oracle_home}\¥discvr31¥doc¥oeodisco.doc（英文）をご覧ください。

- Business Objects Conversion Kit

注意：この機能は日本語版ではサポートしていません。

英語環境でお使いになる場合、Business Objects Conversion Kit を使用して、Business Objects のユニバースを Discoverer のビジネスエリアに変換することができます。詳細は管理ガイドの付録 B を参照してください。Business Objects Release 4.0 に対応しています。

- MAPI 対応について

MAPI を使用してメールを送信する場合、Discoverer をインストールしたあと、
[ORACLE_HOME]\¥discvr31¥dcx.exe を一度実行する必要があります。画面が表示されたら、「File」→「Exit」を選択して終了してください。

- データベースリンクを使用している SQL 文をインポートする際の注意

データベースリンクを使用している SQL 文をインポートする際には、データベースリンクをダブルクォート（"）で明示する必要があります。

例： video31.sales_fact@"ESTDB.WORLD"

7.3 その他

- EUL 所有者に必要と思われる「SELECT ANY TABLE 権限」ですが、EUL 作成スクリプトを実行しただけでは EUL 所有者に対して権限付与されません。これはセキュリティ上の問題があると考えられるためです。必要に応じて EUL 所有者に付与してください。
- 問合せ時間予測機能を有効にするためには、あらかじめ表を分析しておく必要があります。Oracle7 リリース 7.2 および リリース 7.1 をお使いの場合は、問合せを行なう表に対し、表の所有者ユーザーで以下の SQL 文を実行してください。

```
SQL> analyze table {表名} compute statistics;
```

Oracle7 リリース 7.3 以降のデータベースをお使いの場合、問合せを行なう表に対し、以下の二つの SQL 文を両方とも実行してください。

```
SQL> analyze table {表名} compute statistics;
```

```
SQL> analyze table {表名} compute statistics for all columns;
```